

長崎県幼児教育センターだより

🚩 No. 2 🚩 2024. 5. 1 🚩



～ 始まっています！「学ぶ保育士等応援事業」～

報道でご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、園内研修等の充実を図り、保育の質を高める目的で、令和6年4月から長崎県独自の「学ぶ保育士等応援事業」（補助金額1人あたり2万円）が始まります。詳しくは6月にお知らせいたしますが、補助金を受けるための園内研修は、下記の3つの中から選ぶようになっています。

- (1) 知事が別に定めるテーマ及び内容で実施する園内研修
- (2) 幼児教育アドバイザー等の派遣を受けて実施する園内研修
- (3) 所在市町等が実施し、県が指定する園外研修を受講した保育士等がその内容を園内で保育士等に伝達するために実施する研修

幼児教育センターが行っている「幼児教育アドバイザーによる支援」も本事業補助金の(2)の要件を満たします。なお、補助金申請前でも、さかのぼって研修の要件として認められますので、希望があればお早めに御連絡ください。アドバイザーの派遣についてはホームページから依頼書をダウンロードしてお申し込みください。



～幼保小連携実態調査～

昨年度未発行のこども未来課通信30号において、長崎県がめざす幼保小連携、市町への協議会設置についてお知らせしましたが、現在、令和5年度分の幼保小連携の実態を把握するための調査（令和6年4月3日付6こ未第14号「令和6年度長崎県幼保小連携実態調査について（依頼）」）をしております。

県としては、今後、「交流のために、事前や事後に小学校と情報共有をしたり、お互いの理解を深めたりする協議を行ったか」これを1つの指標として、架け橋期の連携を進めてまいりたいと思います。この調査は、毎年、県内全ての幼稚園、幼保連携型認定こども園、認可保育所を対象としております。5月10日（金）の期日を過ぎた場合は所管課を通して連絡をさせていただきますので、お早目の回答をお願いいたします。

※今年度からWEB入力になります。下のアドレスまたは、二次元コードから入力をして、最後に「送信」を押してください。

<https://forms.office.com/r/9GA087TxEF>

幼保小連携実態調査（令和5年度実績）



～市町巡回研修はじめます！～



幼保小連携を進めるための1つの手段として、指導・保育要録での「子どもの育ちの姿をつなぐ」引継ぎがあります。毎年、特に5歳児を担当した先生は「何を書こうかな」「文章量はどれくらいが適切かな」「いいところばかりでなく、課題も書きたいけど・・・」など子どもの育ちを伝えるためには、どう書き表せばよいか、頭を悩ませていることでしょう。昨年度、市町や団体から要請を受けて研修会をさせていただきましたが、指導・保育要録の書き方についての要望が多くありました。

そこで、今年度からの新しい取組として、本課の指導主事が各市町に赴き、巡回研修を実施することとしました。初年度である令和6年度の研修テーマは「要録の書き方研修会」です。特に、指導上参考となる事項の欄について、幼児教育と小学校教育の接続を意識し、小学校へつながるような書き方・内容の研修をしたいと思っています。

後日、県及び市町担当課から開催案内を送付いたしますので、多数のご参加をお待ちしております。

市町巡回研修「要録の書き方研修会」今後のスケジュール(予定)

○ 7・8月 開催時期調整

○ 9月～1月末 研修会開催

※平日の午後開催を基本として考えております

(文責：高田 敦)

子ども主体の保育 ～こいのぼりづくり～

先日、ある園におじゃましたときのことです。4・5歳児が椅子を半円形に並べ、“お集まり”がしていました。歌を歌ったり、今日の見通しをもったりした後に、こいのぼりの制作について話がありました。「昨日おうちで考えてきてねって言っていたけど、みんなこいのぼりの色は考えてきましたか？」この言葉には、二つの良さがあります。一つは、前日に“明日につなげる”言葉かけがあったこと。もう一つは、色が自由に選べるということ。子どもは「大きいのは紫で、小さいのは青」などと答えていました。先生は「紫は濃い紫？薄い紫？」と、子どものイメージをよりはっきりさせる言葉かけもしていらっしゃいました。子どもは、友達の色に引っ張られることなく、自分の選んだ色を答えることができていました。その中で、「大きいのは白。もう一つも大きいのがいい。」と答える子どもが出てきました。それに対して先生は、「みんな、二つとも大きいのがいいと言っているけど、いい？」とおっしゃいました。先生の言葉の裏に全く否定的な気持ちがないので、みんなは「いいよ。」と、受け入れました。

このようにして、日々、子どもの主体性は育まれ、自分の意見を持ち、自分と異なる意見も受容できる子どもが育っていくのでしょう。また、子どもの主体性を育むということは、子ども一人一人を大切にすることなのだ実感しました。いい場面を見せていただきました。

(センター長 室野)